



大阪大 川崎和男教授

いのちを守る

# 「トリアージ」3段階に



災害や事件・事故による多数のけが人を効率よく病院へ運べるよう、けがの程度によって搬送や治療の優先順位を付ける「トリアージ」。日本

では、阪神大震災(95年)以降に広まり、JR福知山線脱線事故(05年)や昨年の東京・秋葉原殺傷事件などで実施された。順位付けは色分けされたタグが使われ、黒(死亡)、赤(最優先治療)、黄(緊急治療)、緑(軽処置)の4段階。医師や救急隊員が症状を素早く判断し、患者の腕などに取り付けていく。もっとも

では、阪神大震災(95年)以降に広まり、JR福知山線脱線事故(05年)や昨年の東京・秋葉原殺傷事件などで実施された。順位付けは色分けされたタグが使われ、黒(死亡)、赤(最優先治療)、黄(緊急治療)、緑(軽処置)の4段階。医師や救急隊員が症状を素早く判断し、患者の腕などに取り付けていく。もっとも

伝票と似ていて「荷札」のよう。人は荷物じゃない。人が身に着けるには、ふさわしいデザインがある」川崎教授が提案する3段階タグ。写真は手のひらサイズ。記載する情報も、名前や



生年月日、血液型、傷病名、連絡先など必要最小限にとどめた。理想とするのは、行政などが事前に配布し、各人が情報を書いて携帯すること。非常時に活用できる仕組み。こうしたデザインを「PKD(ピース・キーピング・デザイン)」と位置づける。「トリアージ」の普及にもなり、より多くの人の命を救うことにつながる」と強調する。【野田武、写真・山田耕司】「最前線」は今回でおわります。